



# 士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol. 30 No.2378

■2011～2012年度RIテーマ：

こころの中を見つめよう、  
博愛を広げるために

2011～2012年度RI会長 カルヤン・バネルジー



新日地域交流施設  
「和が舎」

画/百瀬達夫

■2011～2012年度士別RCテーマ：

人と人を思いやる  
心をもって前進しよう

■例会場/士別グランドホテル

■例会日/毎週月曜日 12:10～13:10

■事務所/士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234

■会長/渡辺正一 ■副会長/藤吉敏博

■幹事/伊藤優市

## 今日のプログラム 第2460回例会 2012年3月19日(月)

### ■ 3月12日の記録 ■

- 司 会 高山 稔 会場監督
- 斉 唱 我等の生業
- 本日の出席 会員51名中 出席者42名 出席率82.35% 修正 %
- 本日の欠席 今井 裕、岡田 晃、黒田康敬、谷 温恵、深尾幸夫、細川博司、山本 榮、輿水広志、加藤 博
- メイクアップ
- ビジター
- ゲスト 北海道士別東高等学校校長 花田雅典様
- ニコニコBOX

累計261,000円

### 例 会 予 定

#### ■3月の予定……………《識字率向上月間》

- 3月5日(月)/例会、理事会
- 3月12日(月)/例会
- 3月19日(月)/例会
- 3月26日(月)/夜間例会

#### ■4月の予定……………《ロータリー雑誌月間》

- 4月2日(月)/例会・理事会
- 4月9日(月)/例会
- 4月16日(月)/例会
- 4月23日(月)/夜間例会
- 4月30日(月)/休会(法定休日：昭和の日)

■会務報告……………渡辺正一会長

●本日のゲストの御紹介を致します。市立土別東高校の校長 花田雅典様、お忙しい中有難う御座います。講話をして戴く内容は、生徒の生き生きと学び可能性を伸ばす、一人一人を大切にすることをスライドを見ながらお聞かせ下さいますことを喜びとするところであります。宜しく願い致します。さて、3月11日東日本巨大地震、津波、さらに原発、地上最悪な状態の新聞、TV、ラジオ等で見聞して、皆さんは心の中でどのように感じましたか。家や物を失うのは何とかなるが、人の命は二度とこの世に存在しない、言葉だけで表現は出来ない。私の心の骨が折れそうで、私も1人の被害者の1人かもしれない。原油の5週連続で高騰、コスト上昇も約10円最高値を記録しました。平成8年、ガソリン180円以上、現在は市況150円を越えています。定額給油が激増しているのが今日この頃です。厳しい経済状況で原材料も上昇に先行不透明です。1人1人が自分の力を過信せず頑張りましょう。円安は6月頃まで続いた場合どうなるのでしょうか。

■幹事報告……………伊藤優市幹事

●土別中学校野球部全国大会出場協賛金の件、理事会で検討しましてお支払いを致しました。ご報告致します。

●名寄ロータリークラブ・下川ロータリークラブより例会案内並びに会報が届いております。資料台に置いてありますのでご観覧下さい。

●先週の例会で部数が少なく配布出来ませんでした、ガバナー月信、今日配布致しましたのでお帰りにお持ち帰り下さい。

■次年度報告……………泉谷 勇次年度幹事

●今週水曜日の第1回目のクラブ協議会のご案内を差し上げておりましたが、会費を間違っております、大変申し訳ないんですが、1,000円と書いておりましたが、2,000円となっております。

■委員会報告

●プログラム委員会……………山本俊一委員長  
本日の講話のゲストは花田雅典様です。今日は「伸び伸びとした学びの場を求めて」という題で講演を

頂きます。先生の経歴は夕張市出身、スポーツ万能の先生で、特にスキーですが、昭和51年に蘭越高校で野球部顧問を致しまして、小樽支部の代表決定戦に出場しております。平成3年には伊達南丘高校で硬式野球部監督で南北海道大会出場、室蘭苫小牧支部代表、平成9年には旭川東栄高校で硬式野球部監督で旭川支部代表決定戦に出場、その他、襟裳高校では教頭先生を致しまして硬式野球部の部長をしております。先生宜しく願い致します。

■卓 話……………花田雅典校長

先程、経歴の一部をご紹介して頂きましたが、もともと保健体育科の教員で高校生までは器械体操、大学ではスキー、小さい頃からスキーはやっていたので、アルペンスキーではなく競うスキーというか大会に出ていたりし、蘭越高校という小さな学校で審査員を、その時にたまたま野球の顧問がいなくて持ち、それから野球から離れなくなり、3年程前の十勝支部の秋季大会、教頭でしたが部長でベンチに入りました。夏は野球、冬はスキーで殆ど土曜、日曜日が無しという毎日でした。土別東高校はスキー関係で若い頃一緒にやっていた友人達も東高校を卒業していたり、教育委員会に勤務されていたり、土別に来てからも初めて住む場所という感じもせず、1年半になりますが大変楽しくやらせて頂いています。今後とも宜しくお願い致します。

伸び伸びとした学びの場を求めてということで、教員と私と皆でどんな学校にしよう、どんな理念で学校を運営していこうかということで、松山千春さんの「いのち」という曲を聴き、生まれてこの子の一生を親とすれば最後まで見届けたいというのが親の思いだろう。いままで小学校、中学校、高校、例えば高校だと3年間、高校で受け入れてその3年間を教育して卒業させればという思いが我々教員の世界では強いのですが、彼らが人生を歩んでゆく僅か3年間が次の社会への自立に大きく影響を与えるということで、そういう使命感で学校というのは、生徒と関わりたい、それが伸び伸びとした学びの場を本校では求めて行きたいと先生方と意思統一をしながらやっております。

昭和23年開校で3月1日、60回目の卒業生、1205

---

---

名の卒業生を出すことが出来ました。私としては生徒一人一人を大切にしよう、元気な生徒と情熱溢れる教師が集まっている学校なんだ、そして地域から信頼される学校でありたいということで進めています。特に土別の豊かな自然とこの地域の産業基盤、農業等様々な基盤の地域、地域の方々から支援を頂いて土別市立高校として60年を超える歴史を積み重ねてきたということなのかと思います。当初は普通科ではあるのですが、上土別地域の農業後継者の育成という学校の使命があったと、その後少しずつ中身が変わりながら土別高校、土別商業高校の道立高校が2校、本校という形で役割がどんどん変わりながら来ております。近年は文科省の方から高校における発達障害支援モデル研究校という指定を受けて2年間研究をしております。今実践をしているところですが、東高校の使命は地域の後継者教育から、1人1人が教育に大きく変わってきているのではないかと、一つは私は昭和28年生まれですが、その頃は高校は60数%の進学率だったのが、今は98%以上を超えている状態です。生徒数が非常に大きく減少している。中卒者の推移が平成元年は9万人を超えていたのが、平成24年、今年春中学を卒業する生徒は4万8千ですからほぼ半減して急速に生徒が減ってきております。本校は地域の小規模校の学校ですので、現在3年生5名が卒業しましたが、2年生が11名、1年生が6名、全員で22名という小さな学校で教育をしています。

その後プリント、スライドを交えながら学校の概要、こんなことをやっていきたい、お願いしたいということでお話を頂きました。

---

---